

平成30年度 常葉大学教育学部附属橘小学校 学校評価書

本校の学校評価の項目

- 1 経営の重点（重点目標）に関する事 2 指導部に関する事 3 組織運営に関する事 4 特色ある教育に関する事

1 経営の重点（重点目標）に関する事（児童の姿）

5：大変よくできた 4：よくできた 3：できた 2：あまりできなかった 1：全くできなかった

学校教育目標	自己評価	学校関係者評価	学校関係者委員会の意見
<p>生きる力を互いに高めあう児童の育成 ～三方よしの実践を通して～</p> <p>☆ 確かな学力</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的な学習習慣を身につけた児童 基礎基本を確実に習得している児童 課題を持ち自ら考える力を持った児童 <p>【学校説明】</p> <p>「しあわせ学習」を合い言葉に、学習習慣の基本や月のめあてを児童に伝えたので、児童にとって、何をがんばればいいのか分かりやすかった。授業開始時刻が守られ、学習態度が向上した一方、「聞く・話す」事に関しては、教員、児童共に評価が低めである。</p>	3	4	
<p>【次年度の改善策】 「しあわせ学習」カードを活用した振り返りは回数を減らして継続する。これまで毎月児童におろしていた月の目標は教員の押さえとして指導に生かすこととし、年間を通して「聞く・話す」力を伸ばすことを目標に掲げていきたい。学活などで、自分の意見を述べたり、話し合いをしたりはできるが、「必要な内容を伝える」「正しく聞き取る」点が不十分なので、学年の発達段階や時期を考慮しながら具体的な手立てを講じていく。</p>			
<p>重点目標</p> <p>☆ たくましい心身</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣を身につけた児童 計画を立てて最後までやり遂げる児童 体力の向上を図り、健康で安全な生活ができる児童 <p>【学校説明】</p> <p>朝の活動や体育の時間などで目標を立て、それに向かって意欲的に取り組めることが多かった。めあてカードを効果的に使うことができた。基本的な生活習慣については、高学年になればなるほど、評価が低くなっている。</p>	3	3	<p>基本的な学習習慣は本来は家庭でつけるもの。低学年の物差しで高学年を見ても合わないのではないかな。</p>
<p>【次年度の改善策】</p> <p>基本的な生活習慣については、アンケートをとり、実態を把握したうえで、懇談会やPTA総会で話題に上げ、家庭へと伝えていく。児童の意欲が継続するよう、来年度も効果的に目標をたて、それを見届けられるカード作成や評価をしていく。</p>			
<p>☆ 豊かな心</p> <ul style="list-style-type: none"> 相手の身になって考え・行動できる児童 協力して温かな人間関係を作ることのできる児童 感動する心を持った児童 <p>【学校説明】</p> <p>低学年では、まだ自分優先になってしまい、相手のことを考えることができないことが多い。些細な揉め事も多い。</p>	3	3	<p>高学年の低学年に対する行動を見ていると、思いやりの心は十分育っていると思う。</p>
<p>【次年度の改善策】 道徳や学級活動などで取り上げ、相手の気持ちを考えられる児童を育てていきたい。教員が先頭に立って、よいことをした児童を褒め、それをクラスや学校全体に広め、よい雰囲気を作れるようにしたい。児童の豊かな心を可視化し、それを見た児童が真似したいと思えるような環境を作っていく。</p>			

2 各指導部に関すること（児童の姿）

生徒指導の目標 自分よし、相手よし、みんなよし、の「三方よし」の精神で活動する子の育成		自己評価	学校関係者評価	学校関係者委員会の意見
学習指導	<p>☆ 学習指導 学びの基本をしっかりと身に付けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをもつことができる。 ・考えを発表表現できる。 ・丁寧に書くことができる。 ・学ぶ姿勢・習慣を身に付ける。 ・良い本を多く読むことができる。 ・家庭学習（日記）を習慣づける。 <p>【学校説明】 学ぶ姿勢や学習態度の基本が身に付きつつあり、自分の考えをもって発表したり表現したりできるようになった。一方で、発表の声が小さく、内容のまとまりに欠ける面も見られる。家庭学習では、宿題を完結しないまま登校する児童もあり、家庭との連携を図る必要がある。</p>	3	4	<p>いろいろなことに取り組んでいるが「話す」「聞く」に重点をおいたらどうか。 教員が子供たちを一人一人よく見ている。 主体的、話す、聞く、基礎基本はしっかりできている。</p>
	<p>【次年度の改善策】課題を確認した後、考えづくりの具体的方法を指導し、書く時間を確保する。発表前の段階で机間巡視などにより声掛けを行い、自信をもって発表できるように働きかける。懇談会などを活用して、学校と家庭の両輪で子どもを育てていくために家庭の協力が不可欠ということを伝えていく。家庭学習については、問題解決後の答え合わせ、解き直しが大事だということを伝え、徹底させていきたい。</p>			
	<p>☆ 図書館指導 学校図書館への期待感をもち良い図書館利用者の基礎を身に付けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本を読むことの楽しさを知り読書を習慣化している。 ・図書館情報を活用し、自分の課題や疑問を解決する力を身に付けている。 <p>【学校説明】 課題や疑問がある時に図書館を利用して調べ学習をすることが当たり前になってきた。読書月間の取り組みでは、貸し出し方法の改善や図書委員の働きかけがあり、目標達成率が97%になった。わずかな時間を見つけて図書館に足を運ぶ児童が多い。</p>	4	4	<p>司書の力に負うところが大きい。 図書館を教員が活用できる力があれば学習センターとしてさらに充実する。</p>
	<p>【次年度の改善策】学習センターとしての機能を充実させるために、児童に図書館の利用を促すだけでなく、まず、教師自身が図書室活用の意識をもって足を運ぶようにしたい。教科書に沿って、図書館が活用できそうな単元を洗い出し、司書との連携を図ることも必要である。そのために、教師が司書のリードで本校図書館の書架を回り、蔵書の確認をするなどの機会を設けていきたい。</p>			
生活指導	<p>☆ 生活指導 基本的な生活習慣が当たり前ができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・笑顔（橘スマイル）で挨拶ができる。 ・丁寧な言葉遣いができる。 ・身の回りの整理整頓ができる。 ・時間の自己管理ができる。 ・相手の話をしっかりと聴ける。 ・心身共に健康な体をつくる。 <p>【学校説明】 挨拶について、ここ数年、一部ではあるが自分からできていないこと、また、挨拶されても返さないことが問題となっている。児童が内発的に挨拶の重要性を感じられるように指導していかなくてはならない。</p>	3	4	<p>基本的な学習習慣は本来は家庭でつけるもの。 家での習慣が学校でも習慣化するとよい。 低学年の物差しで高学年を見ても合わないののではないか。 あいさつをする空気を作ることが大事。 あいさつについて児童会で取り組んだらどうか。 教員の意識も大事。</p>
	<p>【次年度の改善策】 道徳の授業の中で必ず題材にし、児童に挨拶の重要性について考えさせる時間をとっていく。学校だけでなく保護者も巻き込んだ議論をしていく。（PTA総会やお便り等）</p>			

生活指導	<p>☆ 防災・安全指導 どこにいても自分の身は自分で守れるように行動できる態度と能力を身に付けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登下校の交通安全のために必要な事柄を理解し、自他の生命を尊重し安全に通学できる態度や能力をもっている。 <p>【学校説明】 昨年度からJ R ・バスの中で問題がいくつかあったため、本年度下校指導を3回多く行った。</p>	4	4	
	<p>【次年度の改善策】 下校指導を増やしたことで、事前に子供たちに注意できたこと、また、問題が大きくなる前に話を聞け、解決に向け取り組めたことなど大変効果的だったため、来年度も引き続き下校指導を多く行っていく。</p>			
	<p>☆ 給食指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事に関する望ましい習慣がある。 ・会食をして望ましいマナーを身に付けている。 ・食事や栄養について正しい理解を深めている。 <p>【学校説明】 マナーが悪い児童がいる。好き嫌いが多い児童がいる。</p>	3	3	給食に対する抵抗があるので丁寧な指導を。無理に食べさせる指導はしない。
	<p>【次年度の改善策】 食べる量、好き嫌いに関しては、低学年のうちに少しでも食べられるように量を調整して、一口でも食べられるように声をかけていく。食事のマナーについては、教員が指導していくとともに、家庭にも食育についてお願いしていく。教員は食事の際、児童の前に出て、全体が見渡せるようにする。</p>			
	<p>☆ 清掃指導 正しい清掃の仕方を身に付けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清掃用具の正しい使い方を身に付ける。 ・一人一人が自分の役割に責任をもつ。 ・協力して掃除をすることの大切さを理解する。 ・黙って掃除をすることができる（黙働）。 <p>【学校説明】 掃除用具の使い方がわかっていない児童がいる。高学年になるにつれ黙働掃除ができていく。</p>	4	4	学年が上がるにつれ黙働ができていくことはすばらしいこと。
	<p>【次年度の改善策】 師弟同行で掃除を行い、黙働掃除を続けていく。掃除用具についても、その中で使い方を伝えていく。</p>			
<p>☆ 保健指導 自分の体に関心をもち、心身共に健康な身体を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規則正しい生活ができる。 ・外で元気に遊ぶことができる。 ・身体・衣類の清潔に努める。 ・身体と心のバランスについて学ぶ。 <p>【学校説明】 清潔検査で、ハンカチ忘れが多かった。高学年になるにつれ、規則正しい生活ができていない児童が増えている。</p>	3	3		
<p>【次年度の改善策】 毎週月曜日に行っている清潔検査（ハンカチ、ティッシュ、つめの確認）を継続して行い、忘れていた児童には、連絡帳などで保護者にも伝えていく。規則正しい生活については、学年懇談会やP T A総会で睡眠時間が少ないことや朝食を食べないことに、どんなデメリットがあるかを伝え、改善を促していく。</p>				

特別活動	<p>☆ 特別活動 楽しい学校を主体的に作ろうとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協力して温かい学級づくりができる。 ・学校生活向上のための児童会・委員会活動ができる。 ・話し合いのルールを身に付けている。 ・話し合って計画を立てたり、問題を解決したりすることができる。 ・学校行事の目的を理解し主体的に参加をすることができる。 <p>【学校説明】 皆で楽しく学校生活を送るために自分は何ができるか、クラスでは何ができるか、児童会や委員会では何ができるかなど、話し合い活動が活発になり、意欲的に他者に関わっていきこうという児童が増えた。児童集会でも、クラス参加のイベントに積極的に参加するクラスが増えた。</p>	4	4	話し合い活動で学力向上を目指す特活へ。 話し合い活動の充実から授業の充実へ。
	<p>【次年度の改善策】 児童一人ひとりに「自分がクラスの一員であり、学校（児童会）の一員であること、そして、自分が集団を向上させていくのだ」という意識をもたせるために、学年に応じた基本となる学級活動（話し合い活動）を充実させる。児童会活動においては、計画→準備→実行→振り返り→改善のステップを丁寧に踏ませることによって、活動の質を上げていきたい。</p>			

3 組織運営（教員の姿）

	重点目標達成のための機動的組織運営を機能させるためのマネジメント 組織を活性化・機能化させるためのリーダーの責任と自覚	自己評価	学校関係者評価	学校関係者委員会の意見
運営組織	<p>☆ 重点目標達成のために組織的な運営を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導部の3指導部が重点目標達成のためのPDCAを行う。 ・生徒指導部会（主任者会）が機能している。 ・学校運営委員会が機能している。 <p>【学校説明】 生活・学習・特活の各指導部が重点目標達成のために様々な方法を用いて取り組んだ。主任者会では児童の実態を確認し、より効果的に指導ができる方法話し合い、「ありがとうの木」などを行い、感謝の気持ちを育てようと取り組んだ。課題としては振り返りの方法が多く、児童・教員に浸透しにくかった。</p>	3	4	
	<p>【次年度の改善策】 現在、朝礼で行っている「よかった表れや生活・学習の表れ」の紹介をクラスや学年で行うことを通して、お互いで認め合うことで意欲を向上させて次への活動への意欲を生むようにする。各クラスの振り返りカードは廃止し、「しあわせだ」学習の振り返りも回数減らす。</p>			
	<p>☆ 各指導部の長がリーダーシップを発揮する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導主任が3部を統括している。 ・各指導部の長がリーダーシップを発揮し組織的運営を行っている。 <p>【学校説明】 生徒指導主任は主任者会の計画を立てて話し合いを行い、学校の推進役となるように活動できた。各指導部の長は毎月の目標達成のために、責任感をもって取り組んだ。朝礼や職打ちなどを通して、全児童、全教員が現在の状況を把握するとともに、目標達成のためにより効果的に取り組めるような方法呼びかけるなど、積極的に働きかけた。</p>	4	4	
	<p>【次年度の改善策】 生活指導主任と生徒指導主任の仕事が似通っているところがあるので、より明確にし分担することで、教職員に理解してもらい、円滑に仕事ができるようにする。主な内容としては朝礼で行っていた話を生活指導主任が生活目標について指導し、焦点を絞った内容にする。</p>			

研 修	<p>☆ 研修主題「自ら学び、共に追究する子供の育成」を達成するための組織的な研修を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修推進部が研修の方向性を出し研修の推進役を担っている。 ・研修教科部が授業研究の推進役になっている。 ・研修主題を検証するための授業研究を行っている。 <p>【学校説明】『創造的な学び』を副題にして取り組む研究の3年目であった。各教科部が研修部の定義を教科部の視点で解釈し、各教科部で目指す『創造的な学び』にせまることができた。</p>	4	4	大学との連携ができることはいいこと。
	<p>【次年度の改善策】</p> <p>基本的な研修体制は変わらないが、昨年度までの研究内容をより深める形で新たなステージ（3年計画）の1年目がスタートする。昨年度以上に各教科の特色を出しやすい研修体制を考えている。各教科が「資質・能力」や「見方・考え方」をしっかりととらえ、「教科の本質」にせまりたい。</p>			
	<p>☆ 教育学部と共同で研修を深めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学の教員と共同で研修の方向性を協議する。 ・研究教科部が担当の教員と共に研究を行っている。 <p>【学校説明】大学の先生方に指導をいただき、教科研究を深めることができた。来年度も大学の先生と連携を深め教科研究を進めるが、打ち合わせの時間の確保が課題となっている。</p>	4	4	
<p>【次年度の改善策】</p> <p>2020年完全実施の新学習指導要領の内容にいち早く対応するために、今年度以上に大学の先生方との連携は重要であり必要であるとする。附属校の使命である先進的な学習と教育内容の公開を実現するために、大学との連携をより強めたいが、相談する時間を確保することが最大の課題である。</p>				
特別支援教育	<p>☆ 特別支援の必要な児童に対して、支援計画を立て、組織的な支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学と連携をしながら児童の実態把握を行う。 ・児童の実態に応じた支援計画をたて、授業の中で支援を行う。 ・コーディネータと担任、支援員が協力をして個の支援を行う。 <p>【学校説明】</p> <p>大学との連携はほとんど図れなかったのは課題が残った。支援の必要な児童は支援計画を立てて職員会議などを通して共通理解を図り、全教員が協力しながら支援できる体制を整えた。支援員が様々な授業に入り、担任だけでは手が届きにくいところを支援した。</p>	4	4	カウンセラーと養護教諭と管理職をどうつなぎ組織化させることが大事。
	<p>【次年度の改善策】</p> <p>校長が窓口となり今まで以上に大学の先生と連携を図っていく。生徒指導主任がコーディネーターとなり養護教諭と連携するという新しい組織をつくり、特別支援の指導体制を整える。「報告、連絡、相談」のよりいっそうの充実を図り、全職員で情報を共有し、全職員で対応できるよう努める。</p>			
志の高い教員	<p>☆ 志を高くもち、自己研鑽に励んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共感的な心と笑顔にあふれる教員 ・わかる授業、楽しい授業のできる教員 ・強い信念と謙虚さをもった教員 ・感性、専門性を磨き常に進歩する教員 ・高い倫理観と高潔な精神をもった教員 <p>【学校説明】</p> <p>各教員が児童と真摯に向き合い、児童の成長のために努力を惜しまず、教育活動に取り組むことができた。児童が楽しいと思える学校にするために、児童同士のよさを認め合い、支え合う環境をつくらうとする教員が多かった。</p>	4	4	
	<p>【次年度の改善策】</p> <p>働き方改革もあるが自己研鑽の時間の確保をするためにも、行事や業務等で削減するものがないか今後も検討を図っていく。</p>			

4 特色ある教育に関すること

特色ある教育（英語教育、オーケストラ学習、情報教育、書道）を行い成果をあげている。		自己評価	学校関係者評価	学校関係者委員会の意見
英語教育	<ul style="list-style-type: none"> 各学年に応じた英語の力を付けている。 <p>【学校説明】 1年生から6年生まで系統立てたカリキュラムを作成し実施している。本年度はそれぞれの学年の到達目標を確認することができた。</p>	4	4	私立中の入試科目に英語が入ってくる。カリキュラムやどういう力を付けたいかを保護者に示す。
	<p>【次年度の改善策】 1年生から6年生までの英語授業の高度さやよさを伝えていく。</p>			
オーケストラ学習	<ul style="list-style-type: none"> 各学年に応じた演奏技術を身に付け、合奏する楽しさを味わっているか。 オーケストラ学習が、児童同士の良好な人間関係づくりに寄与したか。 <p>【学校説明】 各学年に応じた演奏技術を身に付けようと考え授業に取り組める児童が多かった。学年が上がるほどに、互いの音を意識して演奏できるようになった。</p>	4	5	学年が上がるにつれ着実に力が付いている。系統的・組織的に指導している。
	<p>【次年度の改善策】 来年度も、互いの音を意識しながら、全員で一つの曲をつくり上げるという姿勢を大切に組み込んでいく。</p>			
情報教育	<ul style="list-style-type: none"> 各学年に応じた情報活用技術、情報倫理、プレゼンテーション能力を身に付けたか。 <p>【学校説明】 授業のプログラムやシステムを工夫して、児童が集中できる環境にすることができた。</p>	4	4	
	<p>【次年度の改善策】 2020年に改訂される学習指導要領に明記されるプログラミング教育必修化に向け「人・もの・時間」の整備を検討する。</p>			
書道教育	<ul style="list-style-type: none"> 各学年に応じた書写技術を身に付け、日本文化の素晴らしさを体得することができたか。 <p>【学校説明】 今年度から1，2年生から鉛筆の持ち方や姿勢について指導を始めた。他の教科の授業でもその効果が出始めている。</p>	4	4	
	<p>【次年度の改善策】 来年度も低学年から鉛筆の持ち方や姿勢等の指導を行い、高学年へつなげていく。日本の文化の素晴らしさを伝えるために作品の掲示等も工夫していく。</p>			